

はばたけ未来へ！ ^{みやこ}京プラン2025
(京都市基本計画)
(案)

計画の背景

とくに注目すべき社会経済情勢の変化

人口減少の本格化

①減少局面に入った京都市人口

- 令和元(2019)年の146万6千人から、令和7(2025)年には145万2千人、令和27(2045)年には129万7千人になると推計。

②今後も継続する少子化傾向

- 合計特殊出生率[※]は、1.25(平成30(2018)年)と全国(1.42)より低い状況が継続。
- 15歳未満の人口は、令和元(2019)年の16万人から令和7(2025)年には14万7千人、令和27(2045)年には12万2千人に減少見込み。

③高齢者の増加と単身化

- 高齢化率は、令和元(2019)年の28.0%から、令和7(2025)年には28.9%、令和27(2045)年には36.4%になると推計。
- 高齢単身世帯数は今後も増加見込み。

④人口減少にしなやかに対応する都市のレジリエンスの向上

- 他者との接触がほとんどない社会的孤立の増加が懸念。
- 魅力や活力ある持続可能な都市の構築、互いに支え合う地域社会の構築等を通じて都市のレジリエンスを高めていく必要がある。

地球温暖化の加速

①脱炭素社会[※]に向けた世界の動向

- 地球温暖化が一因とされている異常気象の発生が世界各地で増加。
- 「IPCC第5次評価報告書[※]」では、何ら対策を講じなかった場合、21世紀末までに4℃を超える気温上昇シナリオを想定。
- 「パリ協定[※]」の発効(平成28(2016)年)と運用ルールの採択(平成30(2018)年)、「IPCC京都ガイドライン[※]」の採択(令和元(2019)年)。

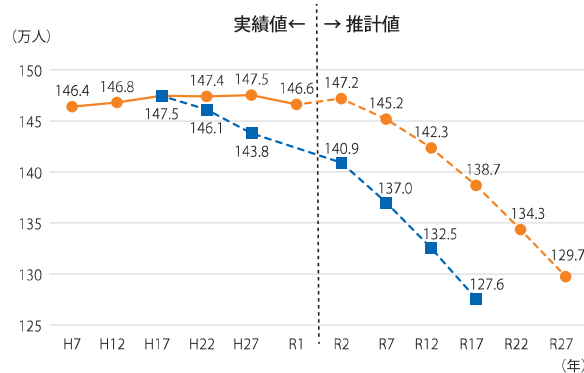
②世界を牽引する役割を担う京都市

- 平成30(2018)年度の温室効果ガス排出量は、基準(1990)年度比で18.5%減少、エネルギー消費量は、ピーク時の平成9(1997)年度から27.8%削減。
- 「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」を平成29(2017)年に発表。
- 世界に訴える「1.5℃を目指す京都アピール」を令和元(2019)年に発信。

③緩和策と適応策を両輪とした脱炭素型のまちづくり

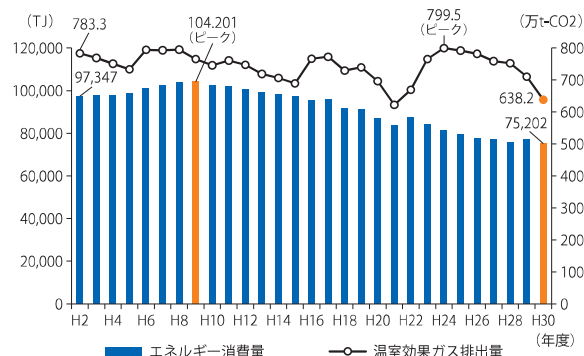
- 温室効果ガス削減を進める緩和策、災害等による被害の軽減、さらには防止を図る適応策を車の両輪として推進し、気候変動に対する都市のレジリエンスを高める必要がある。

京都市の人口動態・将来推計人口



資料:「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に京都市独自推計

京都市のエネルギー消費量と温室効果ガス排出量の推移



資料:京都市

※ 合計特殊出生率:その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。

※ 脱炭素社会:地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出源となる化石燃料の使用から脱却し、持続可能な発展が可能となった社会。

※ IPCC第5次評価報告書:平成25(2013)年から26(2014)年にかけて承認・公表された気候変動に関する報告書。

※ パリ協定:今世紀後半に人間活動による温室効果ガス排出量を正味ゼロにするなどの目標を掲げた令和2(2020)年以降の新たな国際的な枠組み。

※ IPCC京都ガイドライン:京都市で開催された「IPCC(気候変動に関する政府間パネル)第49回総会」で採択された、パリ協定の取組を推進していくうえで必要不可欠な各国の温室効果ガス排出量の算定方法に関するガイドライン。

グローバル化の進展

①世界各地の相互依存の深まりとパンデミックの発生

- 人・もの・資金・情報の流れが地球的規模で拡大し続けるとともに、経済格差の拡大、難民、食料問題、生態系への影響などあらゆる面での世界各地間の相互依存も深まっている。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大は、医療・健康面のみならず、世界経済へも甚大な影響を及ぼしている。

②SDGsの達成に向けて踏み出す世界

- 国際社会全体の普遍的な目標であるSDGsの達成に向け、世界すべての国・地域、地方自治体や民間企業等で取組が進む。

③文化力を生かし、世界との交流を進める京都

- 景観、くらしの文化、文化芸術、価値観等も含めた有形無形の文化は、京都の魅力であるとともに観光面でも高く評価。
- 法改正による外国人労働者の受入れの拡大を受け、今後、京都市の外国籍市民が増加見込み。

④誰一人取り残さない多文化共生社会の実現に向けて

- 新型コロナの拡大による危機に際し、SDGsの重要性が増す。
- 文化がもつ多様な価値を生かし、市民生活との調和を図りながら、誰一人取り残さない多文化共生社会の実現が求められる。

持続可能な開発目標 (SDGs)



※ Society5.0: 仮想空間と現実空間を高度に融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。

※ 公債償還基金: 将来の借金返済のために必要な資金を積み立てている基金。

産業構造の転換と厳しい京都市財政

①経済発展と社会的課題の解決を両立する社会「Society5.0※」の実現に取り組む日本

- 「新しい生活スタイル」への対応、ポストコロナ社会を見据えた取組が必要。
- 経済発展と社会的課題の解決を両立するSociety5.0の実現や生産性の向上、働き方改革等の推進による持続可能な経済の確立が重要。

②京都産業における課題

- 市内の99.7%を占める中小企業の持続可能性を高める取組が一層重要。
- リスクに強い産業構造とするためにも、新たな産業集積を生み出す事業環境の整備、市内企業の事業拡大や新たな企業の誘致の促進が必要。

③力強い経済の創出

- 国際競争力の強化が必要。
- 新たな価値を生み出す創造都市としての機能を強化するとともに、多種多様な産業の重層性をさらに高め、力強い経済と都市の活力を創出することが必要。

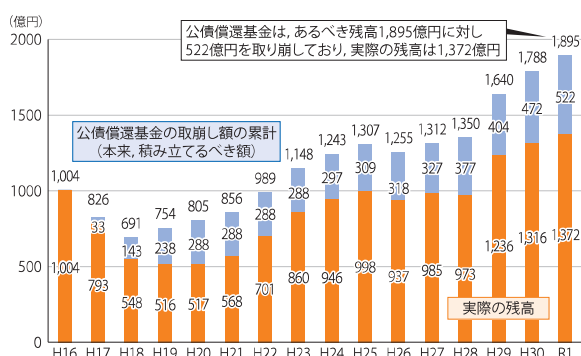
④非常に厳しい京都市の財政

- 厳しい財政状況でも、市民サービスを維持・向上させるために不足する財源を、公債償還基金※の取崩しなどで補てん。
- 新型コロナの影響による財政出動の増、市税の大幅な収入減が見込まれ、財政状況は危機的な状況となっている。

⑤持続可能な行財政の確立に向けて

- 財政運営がより一層厳しさを増す見通しであり、このままでは公債償還基金が枯渇し財政運営に深刻な影響を及ぼす。
- 積極的な都市の成長戦略の推進と歳入歳出両面からの改革の一層の推進により、持続可能な行財政の確立をめざす必要がある。

公債償還基金残高の推移



資料: 京都市

政策分野6 スポーツ

～人生 100 年時代を見据え、スポーツを通して、
健康で心豊かなくらし、人と人とのつながり、まちの魅力向上をめざす～

基本方針

「誰もが、いつでも、どこでも、する・みる・支える、さまざまなかたちでスポーツやレクリエーションに親しみ、その環境をみんなで支え合うまちづくり」を市民、関係団体等と行政とが一体となって進める。人生 100 年時代を見据え、市民一人一人がスポーツを楽しむことで、健康や心の豊かさを享受するとともに、多様な仲間とつながる取組を推進する。スポーツと文化、産業、観光、環境、教育などがつながることで、京都のまちをさまざまな分野からより魅力あるものにする。

現状・課題

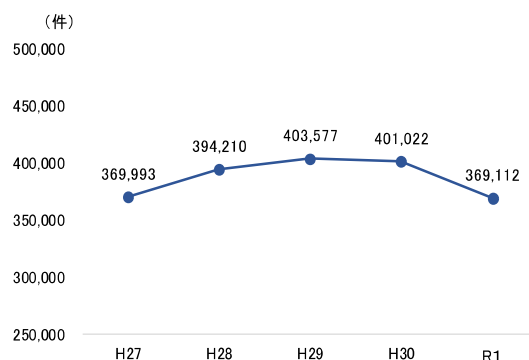
競技スポーツはもとより、生涯スポーツ、家族でのレクリエーション、市民同士の交流など、多様なニーズにこたえるスポーツ施設の提供が求められており、指定管理者制度※により、効率的で柔軟な施設運営を行っている。一方、厳しい財政状況の下、府市協調の推進に加え、民間資金の活用も含めた、施設の整備や老朽化した施設・設備の計画的な改修が必要である。

地域密着型プロスポーツチームの試合や全国レベルの競技大会が市内の運動公園等で開催されるなど、市民がトップレベルのスポーツに身近に触れられる機会が提供されている。また、ネーミングライツ（命名権）等、企業による支援も進み、スポーツ振興に貢献している。

体育振興会やスポーツ推進指導員会は地域におけるスポーツ振興の原動力であり、健康寿命※の延伸や地域コミュニティの活性化にも大きな役割を果たしている。一方、体育振興会の役員や活動が固定化しており、また、スポーツ推進指導員の減少が進むなど、地域スポーツを支える新たな担い手の確保・育成が課題である。

スポーツ施設の利用件数は横ばい傾向

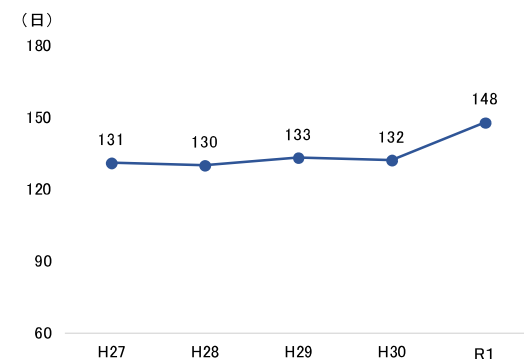
（文化市民局が所管するスポーツ施設の利用件数）



資料:京都市

年間を通じて多くのプロスポーツ・全国規模大会が開催

（京都市で開催されたプロスポーツ・全国規模大会の開催日数）



資料:京都市

※ 指定管理者制度：公の施設の管理運営に民間等の能力を活用し、住民サービスの向上や経費の節減等を図るための制度。

※ 健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

京都マラソンや駅伝大会などの大規模スポーツイベントは、市民スポーツの振興はもとより、文化をはじめとした京都の魅力の発信等、多方面に効果が波及している。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西等の大規模国際スポーツ大会の国内開催によるスポーツに対する関心の高まりを、一層のスポーツ振興と健康づくり、人のつながり、まちの魅力向上に結びつける必要がある。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざまなスポーツの競技大会やイベント等が中止・延期となっている。こうした中、運動不足やストレスの解消に加え、社会の活力の創出など、スポーツが果たす役割は重要であり、安全・安心にスポーツを楽しめる機会を提供していく必要がある。

みんなでめざす2025年の姿

1 スポーツを楽しむ、スポーツを通して健康で心豊かな暮らしを築いている

市民がそれぞれの個性、関心等に応じて生涯にわたって自発的にスポーツを楽しむことができる環境が整備されることで、スポーツを通して健康で心豊かな暮らしを築くことができている。

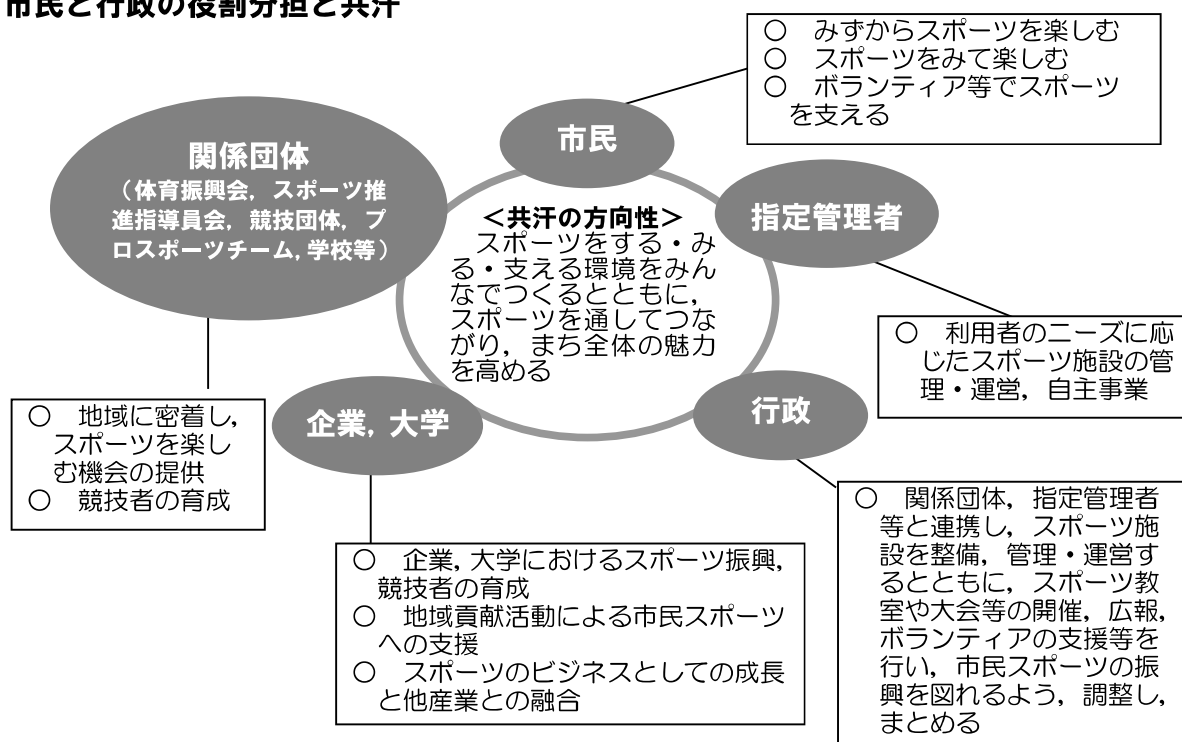
2 スポーツを通して、多様な人と人とがつながっている

市民が年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、スポーツを楽しみ、その活動を支え合うことで、スポーツを通して互いの人格を尊重し、多様な人と人とがつながっている社会を築くことができている。

3 スポーツを身近に感じ、スポーツがまちの魅力を高めている

市民がプロスポーツをはじめ、トップレベルのスポーツに身近に触れることができ、スポーツが文化、産業、観光、環境、教育など、さまざまな分野とつながることで、まち全体の魅力を高めることができている。

市民と行政の役割分担と共汗



推進施策

1 スポーツが身近にある健康で心豊かなくらしの実現

(1) 施設の効果的・効率的な整備と運営の推進

スポーツ施設・設備について、整備を進めるとともに、効率的な管理や長寿命化計画に基づく計画的な改修等により延命と有効活用を図る。施設の運営については、指定管理者制度により、利用者本位に立った柔軟なものとし、ネーミングライツによる企業支援等も導入しつつ、安全・安心で良質なサービスの提供に努める。

(2) 競技環境と観戦環境の充実

国際大会や全国大会などの大規模な競技大会を円滑に開催できるよう、府市協調による西京極総合運動公園の計画的改修や横大路運動公園の再整備等を進め、また、水垂運動公園（仮称）をはじめとする、官民協働によるスポーツ施設の整備の検討を行うなど競技環境と観戦環境の充実を図る。

(3) 生涯にわたってスポーツをみずから楽しむ機会の提供

東京 2020 オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催を契機に、高まるスポーツへの関心を行動につなげるため、市民ニーズに応じた、初心者向けのイベントを増やすなど、誰もがスポーツに身近に触れ、生涯にわたってスポーツをみずから楽しむことができる機会をさらに増やし、市民の健康寿命の延伸に寄与するとともに、スポーツに関する幅広い情報を得やすいしくみづくりを進める。

また、ICT（情報通信技術）の活用などにより、感染症対策に配慮した新しい生活スタイルに適応し、安全・安心に楽しめるスポーツの機会の提供や、その情報発信の充実を図る。

2 スポーツの絆が生きる社会の推進

(1) スポーツを支える組織・担い手の育成

スポーツの楽しみ方や健康に関する指導からアスリート（競技者）の育成のための専門的な指導まで、幅広くスポーツに親しみ取り組むことができるよう、地域や学校等でのスポーツ活動を支える担い手の育成・活動を支援する。

具体的には、市民スポーツの普及・振興に大きな役割を果たす体育振興会、スポーツ推進指導員をはじめとする多様な担い手の確保や育成の支援、実業団や大学等で活躍するアスリートのセカンドキャリアの活用も含めた地域貢献への支援を進めるとともに、スポーツ振興やスポーツによる健康増進に貢献する個人、団体、企業等の表彰制度の充実に取り組む。

(2) スポーツによる共生社会の推進

スポーツをともに楽しむことを通して相互理解を深め、誰一人取り残さない共生社会の礎となる人と人とのつながりを強める取組を進めるため、バリアフリー化など、ユニバーサルデザインの理念に沿ったスポーツ施設の整備・運営を追求するとともに、真のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活、地域活動等の調和）の推進による市民のライフスタイルの変化に応じて、誰もがスポーツに参加できる環境を整備する。

(3) スポーツを通じた多様な主体の連携

各種スポーツイベントを支える市民ボランティアを支援するとともに、指定管理者、体育振興会、スポーツ推進指導員会、競技団体、地域のスポーツクラブ、地域密着型プロスポーツチームはもとより、学校、企業等を含め、スポーツを支える各団体の連携を促進する。

3 スポーツによるまちの魅力向上

(1) ワールドマスタースゲームズ 2021 関西など総合スポーツイベントの開催

ワールドマスタースゲームズ 2021 関西の開会式や競技を京都市で開催することを通じて、生涯スポーツの推進はもとより、市民の健康長寿に対する意識を高め、さらには国際交流や京都の魅力発信に取り組む。また、今後も競技団体等と連携して、国際的又は全国的な規模の競技大会の開催に取り組むとともに、新規誘致を推進する。

(2) スポーツを通じた交流の促進とまちの魅力発信

ランナー、応援する市民、支えるボランティア、企業など、すべての主体が一体となって支え、盛り上げるマラソン大会や全国規模の駅伝大会のほか、都市間交流や国際親善を目的として開催される競技大会を通して国内外の多様な人々、団体等の交流や、スポーツを核に文化、産業、観光、環境、教育などの異なる分野との融合を促進することにより、京都の魅力発信、都市格の向上につなげる取組を推進する。

(3) プロスポーツや競技スポーツへの支援とその魅力の活用

地域密着型プロスポーツチームの振興や、国際大会や全国大会などの大規模な競技大会に取り組む団体への支援を進めるとともに、次代を担う子どもたちや若きアスリートが憧れを抱き、目標となる京都ゆかりのトップアスリートを顕彰するなど、スポーツの魅力を京都の発展に生かす取組を進める。